相楽園（そうらくえん）　中山手通５丁目

相楽園は元神戸市長の小寺謙吉の邸宅であった。小寺は明治の末から衆議院議員として活躍し、第二次大戦後は選挙による最初の神戸市長となった。謙吉の父、旧三田藩士小寺泰次郎が 1886（明治 19）年頃からこの地に邸宅と庭園をつくり、謙吉が大正のはじめに完成させた。その頃は邸宅の他に、名石や石灯篭、池、滝などがあり、茶室の備わる豪華な日本庭園となっていた。1913（大正 2）年の大正政変で、当時代議士であった謙吉が、時の首相桂太郎を支持したことから、桂に反対する群衆がこの小寺邸（相楽園）に押し掛けたことは有名である。1941（昭和 16）年、謙吉から神戸市に移譲、「相楽園」と名付け、市民に有料で開放された。しかし、1945（昭和 20）年 6 月 5 日の空襲で主要建造物は焼失してしまった。戦後、園内を整備して、再び開放し市民の憩いの場となっている。なお、園内にある大きなクスノキは花熊城築城の時、鬼門（北東）に植えたという言い伝えが残っている。また、園内には「旧ハッサム邸」と「船屋形」そして、開設当時からある数少ない建物の一つ「旧小寺家厩舎」があり、これら三つの建造物は国の重要文化財に指定されている。

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

相楽園（そうらくえん）　中山手通 5 丁目

◆旧ハッサム邸（相楽園内）

国の重要文化財

1902（明治 35）年に建てられた、インド系イギリス人 K.ハッサムの住居。もともと、北野町 2 丁目にあった建物で、木造 2 階建、屋根には化粧煉瓦積みの煙突があり、南向き二層のベランダで、外壁はオイルペイントで塗られているという、典型的な異人館である。前庭にあるガス灯は 1874（明治 7）年頃に旧居留地に設置されたものを移設したもので、日本の街灯用ガス灯としては最も早い時期のものである。1961（昭和 36）年に国の重要文化財に指定された。また、阪神・淡路大震災で屋根から 2 階の床を突き抜け 1 階まで落下した煉瓦造の煙突が、地震の激しさを後世に伝えるため、建物正面の前庭に設置されている。

◆旧小寺家厩舎（相楽園内）

ハッサム邸の東隣にある旧小寺家厩舎は「正門」とともに、創建当時からある数少ない建物の一つである。赤煉瓦造、L 字型の構造で、1 階が馬車をいれる車庫と、馬の馬房、2 階に厩務員のための宿舎があった。明治の末、神戸地方裁判所の設計で知られる河合浩蔵の設計で建てられた。1970（昭和 45）年に国の重要文化財に指定されている。

国の重要文化財

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

相楽園（そうらくえん）　中山手通 5 丁目

◆船屋形（相楽園内）

国の重要文化財

南側の池のそばにある。この船屋形は、姫路藩主の遊覧用に使われていた「川御座船」の居室部分である。漆塗りの木部や金箔をほどこした飾り金具はとても豪華なものである。建造時期は 1682（天和 2）年から 1704（宝永 1）年の間と考えられる。
2 層の内部はいずれも 3 室から構成されており、2 階中央の「上段の間」は藩主の御座となったところである。1939（昭和 14）年に牛尾氏の所有となり、その翌年頃に垂水区の同氏邸に移された。1977（昭和 52）年に神戸市に寄贈され、1980（昭和 55）年に相楽園に移築されている。1953（昭和 28）年に国の重要文化財に指定される。

場所：神戸市中央区中山手通 5-3-1

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著